

所属団体

学生投資連合USIC

全国32大学のサークル・約1,100名が加盟し、北は北海道、南は九州までのネットワークを有する、日本最大規模の金融系学生団体



◇理念

- ・2008年創設「日本を学生から金融大国に」というビジョンのもと、学生の金融リテラシー向上に取り組む
- ・学生に金融を学ぶ場+企業に学生とのつながりを提供し、投資を通して豊かな個人の人生をおくるための知識・テクニックを習得する場だけではなく、日本全体の持続的な発展に寄与できる活動を展開



◇活動内容

- ・国内外の金融関係企業と合同で開催する「勉強会の運営」
- ・金融・投資のフリーペーパー「SPOCK」の発行（累計発行部数24万部）
- ・全国の上場企業・大学生を巻き込んで行う「IRプレゼンコンテスト」の主催
- ・新聞ラジオやメディアでの連載など「発信」
- ・学生側の金融リテラシー向上だけでなく、「若者が投資をしやすい環境作りの整備」。官公庁/企業との意見交換などを通じて、若者の投資の現状を伝えるとともに、制度面からの投資の促進について働きかけられるよう取り組む

提言主旨

官公庁やシンクタンクなど、若年層の投資を対象とする定量的な調査は多い。そのなかで弊団体や私が貢献できるのは、学生の生の声を取り込んだ定量的な要素を織り込みつつ、定性的な分析を主に行うこと。

実際に教育を受けてきた・受けている経験から、金融教育を中心に取り上げ、資産所得倍増プラン策定へとつなげる。

NISA/iDeCo等制度面は実際に使う学生のお声を紹介するに留め、踏み込んだ議論は有識者をお願いする。

自己紹介

八田潤一郎

慶應義塾大学法学部政治学科3年

学生投資連合USIC シニアアドバイザー（元代表）

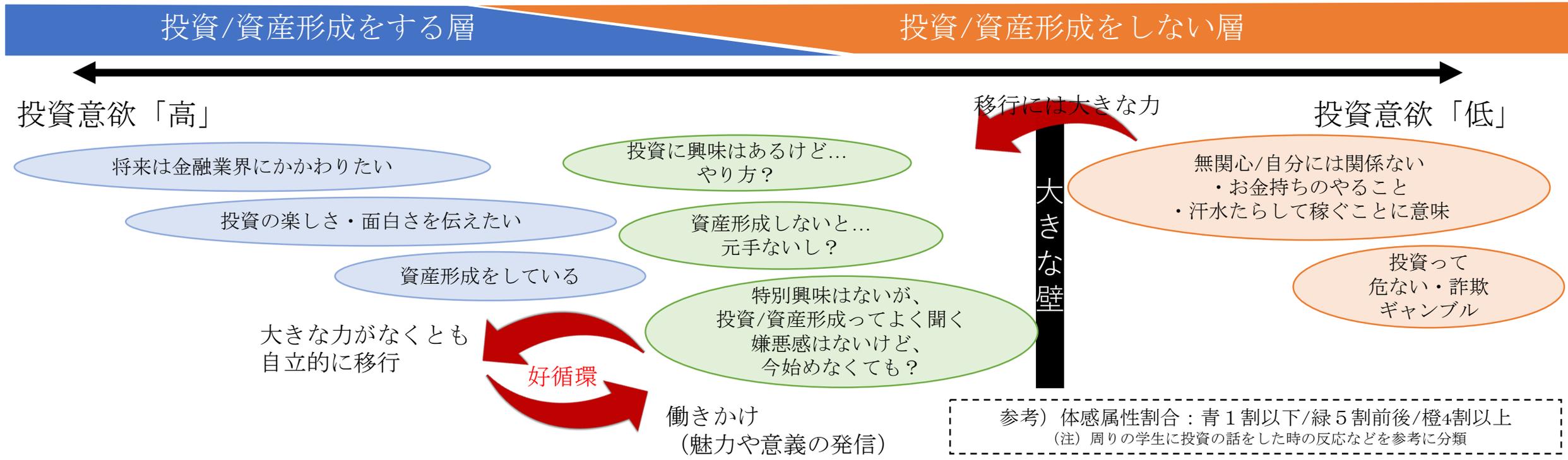
学生団体のなかで、全国の投資を行う学生とコミュニケーションをとるとともに、SNSを通じても若年層の投資のリアルを観察し、学生視点で若年層の投資の現状を把握

個人としての投資歴も約10年と学生のなかでは長く、現在では株・債券のみならず外貨、コモディティ、REIT、先物OPなどデリバティブ等、幅広いアセットで運用しており、各アセットの特性・リスクも体感的に理解

若年層の投資が個々のライフプランの可能性を広げるとともに、日本の持続的な成長に寄与すると考えており、資産所得倍増プラン策定にあたり、少しでもお力になるのであれば嬉しく思います。

異なるアプローチの必要性

- ・投資/資産形成や土台となる金融教育を進める上で、人々（ここでは若年層に焦点）の意欲や捉え方は異なり、そのアプローチも併せて多様化させる必要がある
- ・投資/資産形成をする層としない層という二層/属性だけではなく、より細分化されたグラデーション/属性があるのではないか
- ・グラデーション/属性は投資への理解など金融教育と連動している可能性大
- ・今回は大枠・外観について、属性別の具体的な施策は学生の声を参考に次の機会までに取りまとめる



時間は要するが、現状の教育や制度の延長線上でも一定程度対応可

新たなアプローチ必要 (特に金融教育分野)

(注) 本資料内の制度とは、NISAやiDeCoなど含め投資に係る優遇処置など

◇位置付け
少数だが、投資/資産形成の輪を広げるために重要な層
国際金融都市を目指すうえでの人材としても重要

◇特徴
投資を楽しんで行き、学びたい欲が非常に高く、活用するものの、必ずしも制度を最重要視しない
積極的な運用を好み投機的となることもあるが、経験値が社会人での長期的な投資/資産形成へと活かすことから長期投資とは必ずしも矛盾しない

◇位置付け
環境次第では長期分散積立投資の普及は可能だが、投資の継続性を担保する金融教育が必須
投信への投資のみならず、日本企業を支える個人投資家層育成/拡大することで、日本市場の活性化を期待

◇特徴
意義や必要性の理解は進むが、疑問・不安がまだ大きい
それらをサポートできる環境があれば、投資のハードルはさほど高くはなく、制度活用に前向きであり、制度が重要

◇位置付け
資産所得倍増にあたって鍵となる層であり、潜在意識を乗り越える/誤解を解く大きな力、金融教育が最優先

◇特徴
若年層においては、親世代の影響や社会の根強い風潮で投資を敬遠するものも多い
制度よりも抜本的な金融教育と社会全体の投資への理解が必要